

## 1 取組名称

多世代交流による地域創生（福祉コミュニティ形成）プログラム

## 2 対象科目名

人文科学研究科社会福祉学分野、社会学分野

## 3 取組実施代表者名

人文科学研究科社会行動学専攻社会福祉学教室 教授 和気 純子

## 4 取組年度期間

平成 29 年度～平成 30 年度（2 年間）

## 5 取組の概要

少子高齢化が進展し、家族や地縁による相互関係が希薄化するなかで、大学を起点とする地域創生への参画が求められている。取組実施代表者らは、八王子市高齢者福祉課、八王子市高齢者あんしん相談センター（市委託事業）、八王子市社会福祉協議会、八王子市市民活動協議会、民生委員、社会福祉学分野・同大学院らの学生、本学ボランティアセンター相談員らとともに首都大学東京を拠点とする多世代交流による地域創生プログラムについて検討を開始し、多世代交流プログラム（コミュニティ・カフェ）を開催している。このプログラムは、本学の学生と地域の単身高齢者や障害者、地域の子どもたちが自由に集い、語り合う機会を提供することで相互理解と交流を促進し、相互に支え合う福祉コミュニティの形成をめざすものである。また、学内において開催するコミュニティ・カフェを契機として、地域でカフェ活動を展開している在宅医療機関や地域組織などからも学生の参加を求める要請が相次いでおり、地域の多様な支え合い活動に若い学生の力が必要とされている。

本取組では、当該テーマに関わる本学教員および地域において市民や学生を巻き込んだ地域創生活動（福祉コミュニティ形成）に取り組んでいる専門家や活動家を招聘し、講座を開催し、支え合いによる地域創生（福祉コミュニティ形成）の意義、方法、課題について学ぶ機会を提供する。あわせて月 1 回のコミュニティ・カフェ（愛称南おおさまカフェ）を開催しながら、地域からの参加者を含めて地域における課題や協働のあり方について議論し、学生らが主体性をもって地域課題にとりくむ意識やスキルの醸成を促す。2 年度目には、学生らが主体的に地域創生プログラムらを開発し、それらを企画・運営できるようになることを目指す。

## 6 事後評価の総合評定

4. 2 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

## 7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 現役の学生と地域の高齢者との有効かつアクティブな接点を生み出す試みとして高い成功を収めていると評価できる。特に、退職後に地域社会で孤立しやすい男性高齢者を巻き込む方法に独自の工夫がみられる。
- 今後、ますます大きな課題となる地域創生のあり方という実践的な目的を実現すべく、平均して月1回という比較的高い頻度で有意義な取り組みを行っており、今後の継続的な取り組みのための基礎となりうるものである。
- ボランティアの側面があるが、学生教育の観点からどのような教育効果があるかを意識して活動して欲しい。